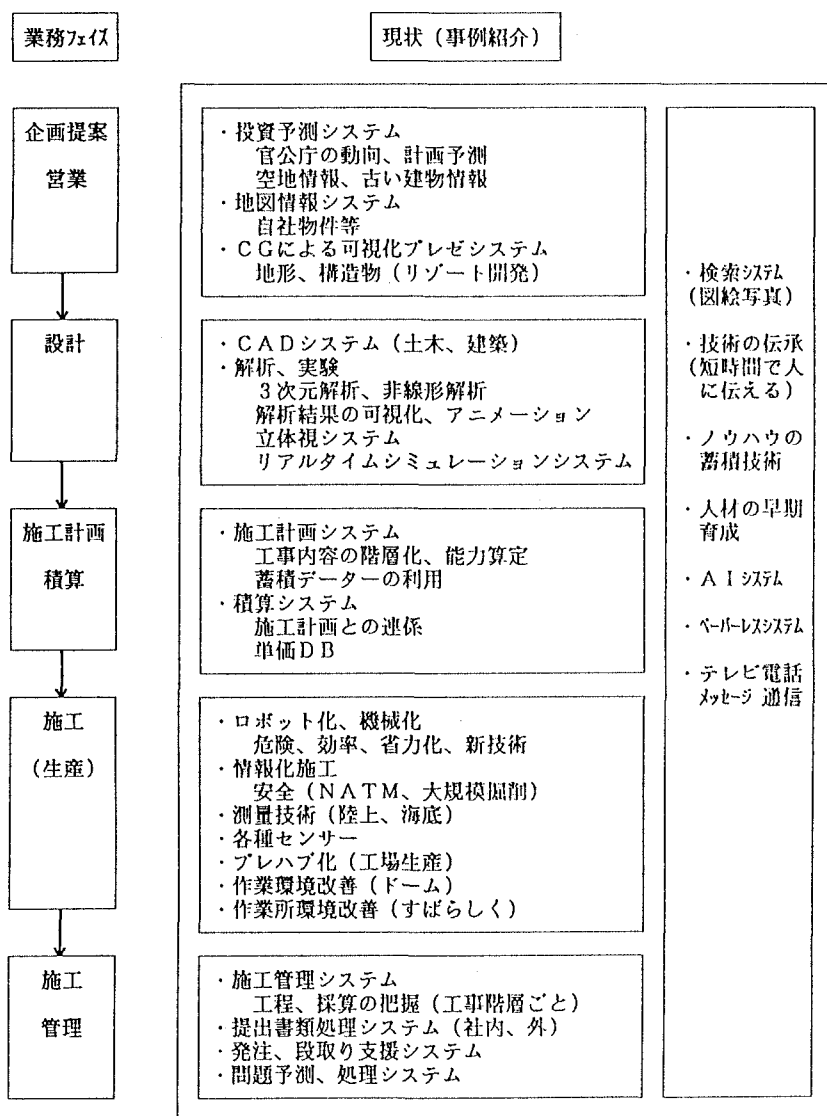


建設事業における高度情報化 (高度情報化の事例と問題点)

大成建設(株) 泉 博允

1. 建設事業における高度情報化の現状と問題点

建設業における業務フェイズごとに対応する高度情報化の具体的現状の事例と、問題点および業務特に建設業では多種多様な生産環境にあり、製造業等における工場生産の環境とは大きく異なるこ



2. 建設事業における望ましい情報化の姿

より早く、より安く、より良いものを社会に提供し、豊かな環境を建設することが、結果として、この目標に向かって推進する過程においては建設現場の建設環境を改善し、また作業所があたかも建設現場で働く人全員が、精神的にも肉体的にも健全に活々と活動でき、生きがいを感じられる環

フェイズ全般に共通する事例と問題点について下記に示す。
 とが技術的難易度を高め、高度情報化の推進に大きな障壁となっている。

問 題 点

・情報の早期公開 ・情報伝達フォーマットの統一（各公官庁） ・地図データと所有する文字情報とのマッチング ・保守メンテナンス（内容変更、追加、修正） ・地形入力 of 省力化（地形図、航空写真） ・リアルな表現技術（霧、雨、質感） ・アニメーション技術（季節、日時、視点）	・ネットワークの充実（音声映像） 本社—支店— 工事事務所— 現場—個人
・システム間のデータ受け渡し、公官庁コンサルト間とのデータ受け渡し（フォーマットの統一、標準化） ・高速処理、高速転送 ・光、音、流れ（空気、水）熱のリアルな可視化技術	・機種変更に伴うソフトの死滅 ・異機種間のソフト互換性 DBの互換性
・施工計画 — 積算 — 施工管理のマッチング ・単価DBの保守メンテナンス	
・経済性 - 業種が多い 数が少ない - 状況の変化が多様多様 - 多種多様のセンサー開発が必要	競争上難しいが ・資産（ハード・ソフト・DB）の共同所有、利用 ・開発テーマの分担 ・業界での協同対応
・管理ロジックのあいまいさ（多種多岐にわたる資材、労務、機械の管理） ・ペーパーレスシステムとこのシステムにおける承認（設計図書も）	

世の中に高く評価される建設事業の高度に情報化された姿と言える。
 宮殿のような外観と充実した施設を整えると共に現場のビジュアル運用管理体制を確立して境にしなければならないと考える。